

山木議員（自民議連）

令和7年2月27日
教育長職務代理者答弁実録
(教育委員会)

(問) 文化財の次世代への継承について

本県の文化財を次世代に継承していくためには、専門知識を持つ人材の育成と技術の継承が不可欠であると考えますが、担い手不足の現状をどのように認識し、その解決に向けてどのように取り組んでいくのか、教育長に伺う。

また、地域で生まれ継承されてきた文化資源の価値や魅力が損なわれることがないように、地域全体でその保存と活用に取り組む環境づくりを整備していく必要があると考えますが、併せて、教育長の所見を伺う。

(答)

文化財は、地域の歴史や文化の理解に欠くことのできない貴重な財産であり、地域の文化を継承し、魅力ある地域づくりや活性化を図るためにも、適切に保存修理し、次世代へ確実に継承していくことが重要であると認識しております。

一方、文化財を扱ったり修理したりするなどの担い手は、高齢化や後継者不足により減少しているほか、生活様式の現代化に伴う需要の減少により、専門的な人材の確保・育成が全国的に厳しい状況にあると認識しております。

このため、県教育委員会におきましては、国庫補助などを活用して、文化財の保存・活用に必要な財源を確保するとともに、国の選定保存技術の制度による支援の外、「広島県文化財保存活用大綱」に基づき、

- ・ 広島県建築士会などが行うヘリテージマネージャーの育成に係る連携・協力、
- ・ 市町における文化財専門職員の配置促進などに

取り組んでいるところでございます。

また、地域全体で将来的なビジョンを定め、継続的な文化財の保存・活用に取り組む環境を整備するため、市町に対し、文化財保護法に基づく「文化財保存活用地域計画」の策定を働きかけるとともに策定に向けた技術的な支援を行っているところでございます。

県教育委員会といたしましては、今後も市町と連携し、文化財の保存・活用の担い手や地域住民の皆様の御理解や御協力を得ることにより、地域社会総がかりで、文化財の保存と活用の充実と、次世代への確実な継承に取り組んでまいります。